

事後評価をいただいた調査研究の紹介



平成 16 年 7 月開催の第 1 回課題評価委員会で事後評価をいただいた 3 つの調査研究課題の概要を紹介します。

1. 「山梨県内の環境水における元素起源と動態に関する研究 - 河川水におけるリンの起源の推定 - 」

平成 14 年度までの調査で、地下水や湧水中のリンとバナジウム濃度に相関性が認められたことから、この濃度関係をベースに、河川水中のリンの起源を推定した。

河川水などに含まれるリンの起源は、家庭排水や農業生産活動などの人為的要因を基に議論されることが多かった。我々は、地下水や湧水を媒体とした岩石・地質的要因に基づく河川水中のリンの起源を、水試料中のバナジウム濃度を基準に推定した。

その結果、

1) 南部フォッサ・マグナ地域の主要河川である富士川、相模川の河川水に含まれるリン濃度は変わらないが、自然的要因と人為的要因に由来するリンに明らかな濃度の隔たりが認められた。特に、富士山北麓に端を発する相模川では自然的要因に由来するリンが主体であり、一方、甲府盆地を流下する富士川では自然的要因以外に人為的要因に由来するリンの割合が高いことが推定できた。

2) 河川水中の自然由来とされるリンは、主として岩石や地質から由来することも確かめられ、自然由来の主体として扱われてきた降水や森林生態系を起源とするリンの寄与は少なく、岩石・地質からの影響の大きいことがこの研究から明らかとなった。

